

正負の数と絶対値

①正負の数

✓0より大きい数を正の数という。

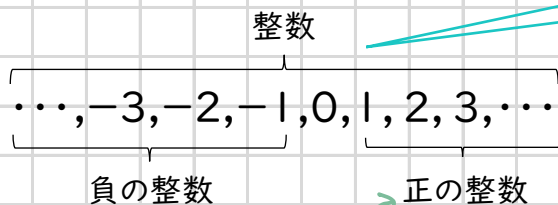
+3,+5など

✓0より小さい数を負の数という。

-3,-5など

正の符号(+)は省略できる

0は正の数でも負の数でもない



正の整数を自然数ともいう

反対の性質をもつ量は、正の数・負の数を使って表すことができる

300円の収入 ⋯ +300円

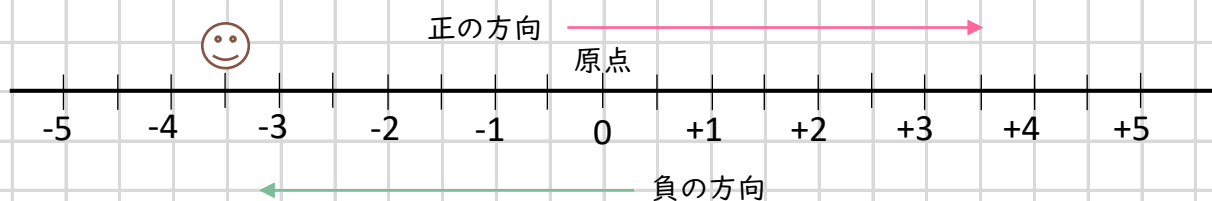
300円の支出 ⋯ -300円

→ -300円の収入 ⋯ 300円の支出と同じ

**-200円の利益は
200円の損益のこと!**

符号とことばを反対にすると、もと同じ意味になる

②正負の数と数直線



✓数直線上で0の点を、原点という。

数直線上で、正の数は0の右側に、負の数は左側に表す。

💡 POINT

数直線乗を読むとき、0を基準にプラス、マイナスをつけて読む。

😊の数は、-4.5

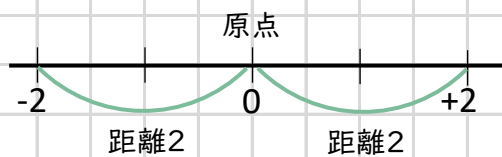
正解は、-3.5

ミス注意!

負の数は、0から左へ数えて読む!

③絶対値

✓数直線上で、0が対応してる点を**原点**といい、その原点からの距離を、その数の**絶対値**という。



+2の絶対値→2

-2の絶対値→2

0の絶対値→0

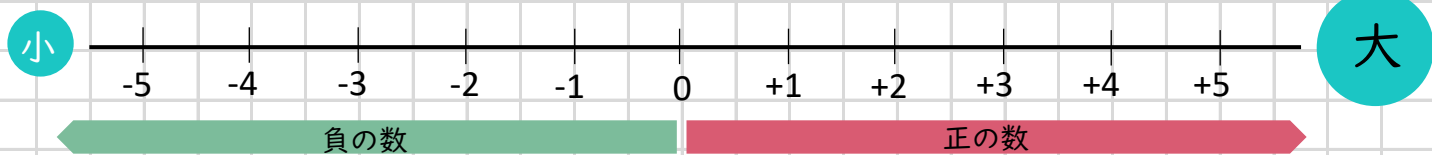
正負の符号を
とりさった数になる

絶対値がある数(0以外)になる数は**2つ**ある

《例》絶対値が7になる数は? → +5、-7

④数の大小

数直線では右にある数ほど大きくなる



POINT

正の数は、絶対値が大きいほど大きい。

負の数は、絶対値が大きいほど小さい。

大小の関係は**不等号**をつかって表す。

不等号をいれましょう。

(1) $-2 < 0$

(2) $-3 > -5$

(3) $-\frac{1}{2} > -\frac{1}{3}$

分数は必ず通分して分母をそろえること!

$-\frac{1}{2} < -\frac{1}{3}$

$-\frac{3}{6}$ $-\frac{2}{6}$ になおして考える!

ミス注意!

負の数は絶対値が大
きいほど小さい